

2月恒例の「まつえ暖談食フェスタ」が今年も開催中である。昨年はJR松江駅構内でも宣伝をさせていただき、今年は、市役所の皆さんや「しまねっこ」と一緒に京阪神でPRをしてきた。遠方からの来場者が増えるといいのだが。

思い返せば、私としまねっこの「共演」は、今から約2年半前、JR大阪駅のステージでのイベントにさかのぼる。関西への帰省の折、たまたま島根県の観光PRイベントをやっていると聞きつけ、現場で制服片手に飛び入り参加、即興漫談で島根を宣伝してもらった。当時は「しまねっ

体操」より関西人のトクの方がウケたように見えたが、今ではとてもかわない。

自治体をはじめ、街の皆さんとこんな気安い関係が築けてきたのも、「珍獣」さながらの私を皆さんが温かく迎えてくれたからだ。

お茶の文化がある松江には、「おもてなし」の心が元来的に備わっている。飛び込みで立ち寄った先で、お茶を立てていただき感激することもしばしば。もっとも、作法さえ心得ない私にとって、お椀をグルグルと2

おもてなしと思いい切り

## 「鉄道人」冥利に尽きる



JR大阪駅でしまねっこと共演する筆者(左)。いつもの制服姿で島根をPR—2013年10月18日、大阪市北区

周も3周も回してしまいうるようになるのだが。

二度三度と街に通い「駅ではこんなことができませんよ」と言えば、いろんな話を持ちかけていた。一見静かに見えるような街でも「松江を

活性化したい」と思っておられる方がたくさんいることがよく分かる。

ただ、古くからのコミュニティの中で、自分一人では新しい「もう一歩」を踏み出せずにいたのだろう。私はそう思い、おこがましくも「議長役になろう」と考えた。みんながなんとなく共通

して思っていることを思い切って口に出したら、それが「笑い」になることは、漫才師上りの私が一番知っている。

今では、駅で「松江駅地域おもてなし委員会」という会を、駅社員と市内の観光関係者とで定期的に開催している。ここでは、向こう数力月の街中や駅構内でのイベントや、遠方からの観光客を増やすための具体策について、共同で企画する。

松江水郷祭花火大会では「あんなに魅力的なのに、終わってから鳥取に帰る列車がない」と言われ、臨時特急を設定したら、増車するほどの盛況ぶり。駅や鉄道がこんなに社会のお役に立っているなんて、鉄道人冥利に尽きる。JRに入社して良かった、心底、そう思った。

(内山興・前JR松江駅長、現JR松江支店長)  
 第2、4月曜掲載

